

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870501438
法人名	有限会社 芳光
事業所名	グループホームおくじま
所在地	愛媛県新居浜市北新町12 - 52番地
自己評価作成日	平成24年6月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年7月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域とのつながりを大切にし、入居者さんがゆったり笑顔で過ごせるように努めている。
------------------------------------------

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>前回の外部評価を受けて、事業所では外出支援について話し合い、両ユニットでレベルや好み等が同じ方同士、少人数、又は、個別で外出できるような支援を試しておられる。外出を嫌がる利用者には、「天気がいいから行きませんか」と声をかけると、「出かけてみようか」という気持ちになられるようだ。皆でDVDを見ながら筋力維持・向上のための体操を行ったり、足浴等も採り入れて、体調を整え、外出支援につなげよう取り組まれている。又、体操や足浴の取り組みが、「家に帰りたい」という気持ちが強い方にとって、よい気分転換となっているようで、ご本人の落ち着いた生活にもつながっているようだ。</p> <p>事業所で行う勉強会では、職員が知りたいことを自分で調べて発表する機会も設けておられ、管理者が「言葉には言霊がある」とお話ししたこと、職員も共感されて、職員は「スピリチュアルルール」等について、さらに調べ、言葉の大切について発表された。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームおくじま

(ユニット名) 雅(みやび)

記入者(管理者)  
氏名 神野栄子

評価完了日 平成24年 6月 28日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 介護理念が目につきやすく、職員が意識出来るような場所に掲示し、常に入居者を支援できるよう心がけている。	
			(外部評価) 「私達は地域の中で信頼され、ふれあいのできる施設を目指します」と、事業所理念を掲げ、事務室や通路、居間に掲示されている。管理者は、ミーティング時、職員に、「理念に沿うためにどうするか」ということについて相談され、新たな取り組みとして「年度目標」を作成することを決められた。今年度は、「やさしい声かけをする」と目標を立てて、理念をより具体的に実践できるよう取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の自治会に加入しているが、老人会や行事等に、今年は参加できなかった。また、事業所の行事には、地域の役員やボランティアの人達に参加して頂き、一緒に楽しんでいる。	
			(外部評価) 事業所が所在する地区では、高齢化がすすんでおり、地域行事を行うことに難しさが出てきており、老人会の方達から、毎年、法人全体で行っている「おくじままつりを地域行事として継続して開催してほしい」と、要望があり、地域の方達と協力し合って開催されている。運営推進会議時に、自治会長や友の会の会員等と、まつりの催し物の相談等をされて、地域の方にも来ていただけるように案内状を配布された。昨年は雨天のため事業所内で行われ、50名ほどの方で楽しまれた。ヨーヨーつり等、子どもも楽しめるよう企画された。又、幼稚園の食事会に招かれることもあり、参加された利用者は「穏やかな表情」で帰って来られるようだ。三味線のボランティアや看護学生の実習等も受け入れておられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、認知症についてのテーマを取り入れ、地域の人達にも、支援のあり方、介護についての意見を聞くことで、事業所の評価につなげられている。また、地元の看護学生の実習も受け入れている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 市役所、自治会長、民生委員、地域の方、入居者参加で2ヶ月に一度開催し、入居者の状況・ケア・感染対策・避難訓練・地域活動等を報告している。 委員の方々の意見も参考にしている。	
			(外部評価) 法人代表者が地区の自治会で役員をしておられることもあり、会議には地域のいろいろな方が参加してくださっている。会議では、事業所の状況や行事等を報告して、参加者から地域行事を教えてもらっている。参加者の身近に高齢者が多いことから、最近の会議では、認知症の方への接し方や会話の仕方等について質問を受けることも増えており、「様子がおかしい」「トイレを失敗する」の相談を、管理者は一つひとつお聞きして、アドバイスされている。参加者からの介護や事業所についての質問について話し合った内容を、ご家族や地域の方にも広く発信して、いろいろな方が参加できるように働きかけてみてはどうだろうか。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市よりあらゆる情報を随時届けてくださる。また、光科学スモッグ情報も確実に得られている。2ヶ月に一度、介護相談員の訪問もあり、多彩なアドバイスを頂き、サービスの質の向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、市の担当者の方が参加して下さっており、市内の介護施設の新設状況やこれからの施設整備計画について説明された。2ヶ月ごとに介護相談員の訪問があり、利用者とお話をして下さっており、男性利用者とお話の中から、「一日に一回は外出したい」という希望を聞き取って下さったことがきっかけとなり、定期的に図書館へ出かけるよう支援することを始めておられた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は入口の施錠はしない。 両ユニット間を行き来できるように開放している。 言動や態度に気をつけ、職員間で声を掛け合い、見守りを重視するケアを心がけている。	
			(外部評価) 事業所では、年1回は必ず事業所内で身体拘束や虐待についての勉強会を行っておられる。管理者は、言葉での拘束についても、「待って」「いかんよ」等の言葉も拘束につながることを説明され、代替えできる言葉はないかということをお話しておられる。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  虐待は入居者の尊厳を精神的・肉体的に傷つける行為であるため、勉強会やミーティングで話合っている。また、職員が共通理解できるように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  現在、具体的な事例は無いが、全職員が理解できるよう学習している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時、入居者のご家族立会いのもと、条文の各項にそって説明し、十分理解して頂いたうえで、契約書を交わしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  玄関に意見箱を置いているが、あまり利用されていない。面会時に、ご家族の意見や思いを汲み取る機会を設けている。	
			(外部評価)  ほとんどのご家族が頻繁に事業所を訪問して下さるようであり、調査訪問時も、複数のご家族の来訪があった。入居間もない間は、ご家族に介護記録をお見せしながらご本人の様子を報告されており、又、ご家族の来訪時には、利用者の様子をみていただきながら、ケアや暮らしについて意見や希望を聞くようにされている。「歌等、楽しみごとをしながら生活してほしい」と、ご家族から希望があった際には、職員で話し合い、併設デイサービスで行われている音楽療法に参加できるよう支援されたり、職員が歌本を手作りして、歌を歌う機会作りに取り組まれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回運営会議を開き、職員の意見や提案を前向きに検討し、運営に反映できるように努めている。	
			(外部評価) 年1回、管理者は職員と面談する場を設けておられる。管理者は、現在、利用者の重度化に伴って、「排せつや入浴、外出支援等について職員の負担が大きくなっている」ことを課題に感じておられる。管理者は、早出を配置する等、シフトを工夫して職員の負担軽減に配慮されたり、休憩時間の確保等に取り組んでおられる。事業所で行う勉強会では、職員が知りたいことを自分で調べて発表する機会も設けておられ、管理者が「言葉には言霊がある」とお話したことに、職員も共感されて、職員は「スピリチュアルルール」等について、さらに調べ、言葉の大切について発表された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力や勤務状況の把握に努め、希望する研修にも参加できるよう配慮している。また、現場の要望に応じて、)可能な範囲で環境の改善に努めている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 段階に応じて研修に参加している。研修後はミーティング時に報告し、情報を共有している。技術やケア方法などは、現場で実践につなげている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者会議、ケアマネの地域密着型部会に参加し交流を図っている。また、グループホーム連絡協議会に加入し、県内の研修にも参加し意見交換を行っている。	
			(外部評価)	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族やケアマネからの情報と、本人の話を傾聴し、不安や要望を受け止め、サービス内容を一緒に考えるように努めている。また、寄り添いゆつくり話を聴くことで、信頼関係構築に繋げている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事業所見学に来所された時、家族を交えて、本人の意向や要望を重視し、不安を取り除けるよう、聞き取りを行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居者の在宅での生活を尊重し、出来る工夫をさせて頂き馴染んでもらえるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 掃除や洗濯たみ等、入居者各々の出来る事で、支え合えるような関係作りに努め、無理なく継続できるように対応している。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人と家族の関係を十分理解し、報告・相談を密に行い、面会や外出を依頼したり、共に支援していくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 今までの馴染みの人や関係が切れてしまっている状態の入居者が多い。ドライブ等外出した際、自宅の近くを通ったりしている。	
			(外部評価) 利用者の重度化に伴い、お知り合いの方のお顔が分からなくなってきたり、会いに来られることを遠慮する知人の方があるようだが、職員は、「お顔が分からなくても、うれしそうですよ。」「これからもいつでもいらしてください」と、利用者に会いに来てもらえるように声をかけておられる。事業所が目指す「ふれあいのできる事業所」に向けて、今後さらに、利用者が重度化しても、大切な人やものをつなげていけるような支援に工夫されてほしい。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の人柄なども把握し、食事の時の席や、外出時の車内での席に気配りしている。 また、手伝いやレクリエーションを一緒にし、気持ち良く一緒に過ごせるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入居中の生活の様子等を詳しく情報提供している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者の思いを最優先とし、家族の意向も大切に、その人らしい生活を送って頂けるよう努めている。 (外部評価) センター方式を採り入れてアセスメントされている。アセスメントは、6ヶ月ごとに見直し、情報を更新されている。職員は、介護記録の必要性や記録の仕方を事業所の勉強会で学んでおられ、日頃から、「歌を歌っているときに表情がよい」「洗濯物を畳んでくださったので、ありがとうございますと笑顔になられた」「何かすることない？」等、利用者の様子や会話を具体的に記録して共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今までの馴染みの場や関係が切れてしまっている状態の入居者が多いが、外出の際に、自宅の近所へ行ったりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の暮らしを共にすることで、生活リズムや出来る力、解る力を発見しチームとして把握するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 入居者ごとに担当スタッフを決め、カンファレンスを行い、モニタリングをしている。入居者主体の目標を立て、個別性のあるケアプランの作成を心掛けている。</p> <p>(外部評価) 介護計画書は、ご本人やご家族の希望を聞き取り、各利用者の担当職員が立案し、職員ミーティングで話し合い作成されており、3ヶ月ごとに見直しておられる。管理者は、利用者個々の介護計画の目標と支援項目が確認しやすいよう一覧表を作り、「介護計画の内容に沿った記録」ができるよう職員に周知されている。管理者は、この取り組みにより、「職員の記録にかかる時間が短縮され、ケアにかかる時間が長く取れる」ことを期待しておられた。</p>	<p>事業所が取り組んでおられる記録の工夫により、今後さらにモニタリングにも力を入れられて、利用者個々の現状に即した介護計画を作成していかれることが期待される。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別に記録し、一日の様子がわかるようにし、職員間で朝・夕申し送り、情報を共有しながら、日々のケアに活かしていくように努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の個別事情や、ニーズに対して出来る限り柔軟に対応できるように努めている。デイサービスの音楽療法にも参加している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に自治会長や民生委員さんが参加されており、地域の情報を教えてくださったり、グループホームの活動に協力されている。また、希望に応じて理容サービスも利用している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居前からの主治医に受診してもらっている。受診時、日常の様子を情報提供している。また往診してもらっている入居者もいる。	
			(外部評価) 定期受診は、ご家族が付き添われている。ご家族の都合により付き添えないような場合は、外部のヘルパーを利用させていただいたり、往診可能な医療機関を紹介されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師が常勤しており、体調不良時の対応や日々の健康管理を行っている。介護職員は、入居者の日々の状態把握や様子観察を行い、異常の早期発見に努めている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時医療機関に情報提供し、入院中は状態を確認するようにしている。また、退院に向けても医療機関やご家族と連絡を取って情報交換をしている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時にホームの対応について説明している。重度化に向けては早い時期から相談を重ね、意志確認をしている。現在ターミナルケアを行っている。	
			(外部評価) 入居時・利用者の介護度の変化があった時・日常会話の中で、少しずつご本人やご家族に終末期のあり方について希望を聞き取っておられる。「ここで最期まで」「ここに迷惑をかけられない」等、気持ちはさまざまで、管理者は「事業所でできること」を説明され、「医療機関やご家族の協力が必要」なことを話しておられる。看取りを支援された際には、職員の不安軽減のために、いつでも管理者に連絡を取れるような体制を取られ、ご家族が食事介助に来てくださる等、協力し合って支援された。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急対応のマニュアルを作っており、救急手当などは勉強会で復習している。 夜間帯の救急対応についても周知できている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時のマニュアルを作っており、年一回避難訓練も実施している。地域の方々には、運営推進会議で協力をお願いしている。	
			(外部評価) 前回の外部評価を受けて、今年度は、「みんなで力を合わせて避難誘導」を目標に挙げて、防災についてすべての職員で意識して取り組めるようにされている。ミーティング時には、何度も、「火災が起これば」と想定して、通報、連絡、避難についてシュミレーションをされた。運営推進会議では、メンバーの方に災害時の避難誘導の協力をお願いされており、近所の民生委員と団地の方には、連絡網に加わってもらっている。又、民生委員の方が、地域の消防団にも声をかけ、協力をお願いして下さっている。又、数年前の水害時、駐車場が浸水したご近所の方に、事業所の駐車場をお貸ししたこともあり、法人代表者は、「災害時には、事業所が地域の避難場所となったり、困りごとや相談等、介護の拠点になりたい」と考えておられた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者一人ひとりを大切に思い、言葉のかけ方や姿勢に留意するように努め、プライバシーに配慮するように心がけている。	
			(外部評価) 職員の利用者への声かけについて、職員と話し合い、今年度の目標を「やさしい声かけをする」と決めて取り組みをすすめておられる。管理者は、日頃から「言葉を注意したら、接し方もやさしくなる」ことを職員に話しておられ、調査訪問時、職員は利用者に対して笑顔でゆっくりと話しておられる様子がみられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入所者の話をゆっくり聞くように努め、自分の思いを言葉に出来る雰囲気作りをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一応一日の流れはあるが、入居者一人ひとりのペースを把握し、笑顔でゆったりした過ごし方をしてもらえるように心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人にあった髪型や洋服など、好みのものを身につけられるよう支援している。訪問理容院を希望されている方々もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居時に嗜好を本人、家族に聞き献立に配慮したりしている。 一緒に準備や片付けを手伝ってもらっている。	
			(外部評価) 事業所では、週3回(火、金、日)配食サービスを利用しておられる。管理者は、「温めたり、切るだけなので短時間で食事が出来上がり職員の負担軽減となり、ケアの時間が増えた」と話しておられた。反面、「料金面」「手作りの方がおいしい」とも感じておられる。事業所で作る食事は、「偏りのない食事作り」に心がけ、「家庭で作るような食事」作りに取り組まれている。メニューは両ユニットの献立担当の職員が相談して立てておられ、誕生日には利用者の希望でお寿司を作ったり、ケーキを職員と焼いたりされている。義歯や体調、好みによって、うどんをごはんに替えたり、又、お茶の温かさの希望は事前に把握しておられ、熱いお茶を好まれる方には、「熱いですよ、気を付けてくださいね」と、言葉を添えておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスのとれた食事を提供している。食事量は毎食個々に確認し記録し、体調に合わせて献立を変更したり、食べやすい工夫をしている。嚥下の悪い入居者には、粥食や軟飯とキザミ食を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きの声かけを行い、個々に合わせて支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに合わせた声かけや誘導を心がけトイレでの排泄に向けた支援をしている。</p> <p>(外部評価) 事業所では、利用者一人ひとりの排せつ記録を付けて、排せつパターンの把握に努めておられる。排せつ記録には、時間ごとに「(排せつの)確認できた」「(トイレに)行ったが出ない」「誘導して出た」等、記号で記しておられた。入居の際、紙パンツを使用していた方も、パターン等を把握して、誘導等を重ね、布パンツで過ごせるよう状態が改善されたような事例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 水分補給を心がけ、飲み物を工夫している。また、日中リハビリ体操等して、身体を動かす機会を設けている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 毎日午後より入浴できる体制をとっており、その人の体調や要望を聞きながらそれぞれに応じたように支援している。</p> <p>(外部評価) 脱衣所には、床暖房とエアコンが設置されており、冬場は浴室との温度差がないよう管理して入浴を支援されている。ほとんどの方は、週に3回くらい入浴されているようだが、希望によっては毎日入る方もある。入浴順番の希望をお聞きしたり、嫌がる方にも声かけを工夫して入浴につなげておられる。季節によっては、ゆず湯を楽しまれることもある。さらに、現在、浴槽をまたぐことが難しい利用者は、ご家族にも説明して、シャワーと足浴で支援されているが、お風呂を楽しむという観点からも、湯船で温まれるような支援の工夫について話し合われてみてほしい。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの状態を確認しながら、休息時間を設けている。夜間は良眠できるように、日中の活動性に配慮している。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が把握できるように、薬の内容や作用などを一覧にしている。薬変更時には管理日誌で申し送りをしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯たみ・食器洗い・食事の盛り付け等それぞれの力に応じて役割をもってもらったり、気分転換ができるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節を感じられるように、花鑑賞のドライブや買い物、散歩を楽しんでいる。 家族が面会時、一緒に散歩に行かれる方もいる。	日々の中で、利用者が外に出かけて気分転換されたり、楽しめるような機会を積極的に作っていかれてほしい。重度化しても、散歩を楽しんだり、行ってみたいところ、懐かしい場所等にも出かけてみてはどうだろうか。外出支援についてはご家族の要望をお聞きしたり、又、協力もいただきながら、支援をすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 前回の外部評価を受けて、事業所では外出支援について話し合い、両ユニットでレベルや好み等が同じ方同士、少人数、又は、個別で外出できるような支援を試しておられる。外出を嫌がる利用者には、「天気がいいから行きませんか」と声をかけると、「出かけてみようか」という気持ちになられるようだ。皆でDVDを見ながら筋力維持・向上のための体操を行ったり、足浴等も採り入れて、体調を整え、外出支援につなげよう取り組まれている。又、体操や足浴の取り組みが、「家に帰りたい」という気持ちが強い方にとって、よい気分転換となっているようで、ご本人の落ち着いた生活にもつながっているようだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 以前は、本人がお金を持っていた人もいるが、現在はいない。 家族の希望で預かっている人達もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) その人に応じて、家族に電話したり、手紙やハガキを持ってきて下さっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用スペースは、清潔第一を心がけ、適度な室温や照明に気をつけている。壁には、写真や季節の折り紙等を飾り、五感を刺激できるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 居間には笹飾りが飾られており、職員が代筆等して、「元気で」「だんだん」等、利用者の願いを書いた短冊を吊るしておられた。畳スペースやカウンターには、ゆりやキキョウの花が飾られ、ベランダではベコニア等のお花を育てておられる。調査訪問時は梅雨の中休みで、すっきりと晴れ、ベランダには洗濯物をたくさん干しておられた。退院して来られた利用者を、職員は、「お帰りなさい」と、笑顔で迎えておられる様子がみられた。利用者の体調もみながら職員から提案して、居間で風船バレー等して楽しめることもある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用空間にはテーブル、ソファー畳コーナーがあり、気の合う人同士がテレビを観たり話込んだりしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 馴染みの物、思い出の品等を持ってこられ、それぞれ個性的な生活感のある部屋作りになっている。また各部屋にはクローゼットが備え付けられているので、寝具や衣類の収納に便利。</p> <p>(外部評価) 毎日、居室全室、早出の職員が掃除を行っておられる。居室の入り口にはご本人の顔写真と名前を貼っておられ、お部屋を間違ふような方には名前の上に折り紙の目印を付けておられる。事業所では、パンフレットに「ご本人様の馴染みのものをお持ちください」と記し、入居時には口頭でも伝えておられる。ご自宅からたんすやカーテンを持ち込み使っている方や、お孫さんの写真やぬいぐるみを飾っておられる方もいる。仏壇を置いておられる方は、おまんじゅう等を買って来られ供えておられる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) てすりや段差のない環境を作り、安全な対応を行っている。また、部屋など間違えないように工夫したり、その都度声かけや誘導などで不安なく安心して生活できるよう支援している。</p>	